

世田がや町総連左より

第2号

発行 世田谷区町会総連合会
 世田谷区世田谷 1-23-5
 発行人 会長 三田 隆 眞
 編集 情報誌編集委員会
 編集委員長 渡 辺 三 郎

防災特集号の発行にあたって

世田谷区町会総連合会副会長
 世田谷地域町会連合会会長

綱 島 栄 藏

炊き出しについて

各町会自治会は世帯数による炊き出し配分を災害発生時より二日間以内に行うべきであろうと思われる。それ以後は行政にお願いする。

町かど防災について

この事については昔の言葉で

「遠くの親戚より近くの他人」

のとおりで、お互いに助け合いの精神で行っていくために必要であろうと思う。なお編集長以下編集にあたった各位に最大の敬意と感謝の意を表します。

(平成七年五月十六日)



一月二十八日町総連の新年会の席上、渡辺編集委員長より第二号の巻頭文をとの要請を受けたので、阪神大地震の直後でもあり防災の事も考え承知した。

三月二十日地下鉄サリン事件発生、十日おきに重大犯罪事件があいついで発生これはまったくの人災である。

ところで、関東大震災より七十余年を経て天災はいつやって来るか不明である。井戸について

各町会自治会においては町内にある井戸の再確認が第一義であろうと思われる。



町会総連合会事務局屋上より北方を眺める

挿入写真について

町会総連合会事務局の移転については八頁の町総連ニュースをご覧いただくとして、旧事務局屋上は区内の四方が見渡せる場所でした。創刊号に引続き、残りの二方向をご紹介します。単位町会がそれぞれの立場と同時に、区内全域に思いを馳せていただければ幸いです。(小泉前事務局長撮影)



町会総連合会事務局屋上より緑多き区内南方を眺める

世田谷地域

わが町会の防災対策

太子堂本町会

会長

森 忠左衛門

平成七年一月に起こった

阪神大震災の影響で太子堂

本町会においても防災意識

が高まりました。平成七年

度の町会総会の席上、予算

案審議において新しく防災

費の項目を設けて防災対策

を推進するよう提案があり、

決議されました。どの様な

施策を行うかは目下検討中

であります。

必ず防災について

話題を

私は町会の役員会や総会

等の集まりの席上では、必

ず防災についての話題を取

り上げるように心掛けてお

ります。

その基本は、まず、自分

の身の安全を計ること。次

に、家族の安全を確かめる

こと、そして、自分の家か

ら火を出さないこと。

避難所の確認

これが出来たら隣近所の

人達の安全を確かめること。

そして、一時集会所や

広域避難場所の確認も行っ

ております。

会報発行で

最新情報の周知

また、太子堂本町会では

毎年会報を発行して、その

中の防災欄で、一時集場所

所や広域避難場所及び震災

対策用指定井戸の所有者の

氏名、場所の周知も各戸配

布で行っております。

震災対策用指定井戸水は

毎年多少の変更があります。

そこで、常々最新情報を周

知しておかないと非常の際

北沢地域

今回の災害に学び

わが自治会で検討したこと

都営桜上水3丁目アパート自治会

会長 上村 斉

斉

に戸惑うことが起こります。何よりも心の交流を

何よりも大事なことは隣組の人達の日頃の心の交流

ではないかと思えます。とんとんとんからりと隣組

地震や雷 火事泥棒

たがいに役立つ 用心棒 助けられたり 助けたり

(岡本一平作詞) 今から五〇年以上も昔の唄ですが、この唄の心を大事にして地域や町を守って行きたいと思えます。



阪神淡路大震災に於ける大惨事と、自然の脅威を教訓として『災害に強い町づくり体制』の強化について責任を痛感し、防災方針の見直しを防災部役員を中心に検討しております。

今後の目標、方針として

一、地域住民（隣接町会自治会）との一層の助け合いと、協力体制の徹底を計る。

二、消防署との連携により、訓練の指導、講演会開催等の企画の強化。

三、合同防災訓練参加の呼び掛けには全員参加を目指す。

四、防災意識の高揚を計るため、行政機関の研修会、講演会等に積極的に参加する。

五、防災訓練は、消火器の取り扱い、D型ポンプ操法の習得を全会員が可能になるまで徹底して訓練する。

六、機材補給として、倒壊家屋の下敷きから救出するための油圧ジャッキ、チェンソー、ボール等器具類の確保。

七、団地住民（自治会員）にヘルメットを全世帯に配布する。（配布済）

八、防火貯水槽について、現在団地内に防火貯水槽



初期消火 — ボクたちにも出来るよ



初期消火 — お父さんと一緒に

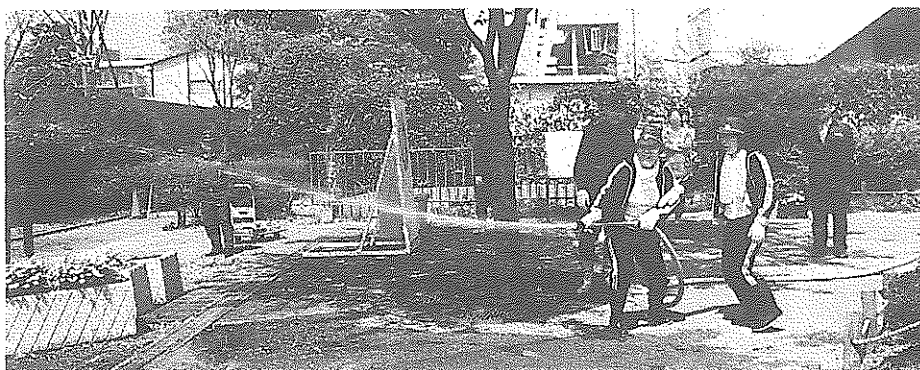
がないため、設置を要請する。

九、広域避難場所までの安全道路の設置。

十、災害用情報連絡強化の為、固定無線器配備（区と町会自治会専用）が必要。

最近、東海沖地震の前兆や、疑惑の恐れがある地震が伊豆方面で度々発生し、

緊張する今日です。私たち小規模団地自治会（六十八世帯）ですが、常日頃から和合精神と団結力が強く、有事の際は一致協力して災害と闘い、活躍する事が出来る様に今後一層訓練に励んでいきたい。



D型ポンプは
住民消火活動の中心

玉川地域

自主防災の意義

玉川中町会

会長

細井正一

自分たちの町は
自分たちで守る

去る一月十七日早朝関西
淡路を襲った大震災は同じ
大都市に生活基盤を持つ私

達にとって防災意識がやや
風化していた昨今、身近な
警鐘でありました。今年七
十二年目を迎える関東大震
災の貴重な教訓と共に、地
域防災計画の見直し

「自分た
ちの町は自
分たちで守
る」――
自主防災の
推進は最も
重要な課題
であります。
災害地で
は今なお不
自由な避難
所生活を余
儀なくされ
ている方も
多く、比較
的安全と思
われていた
高速道路や

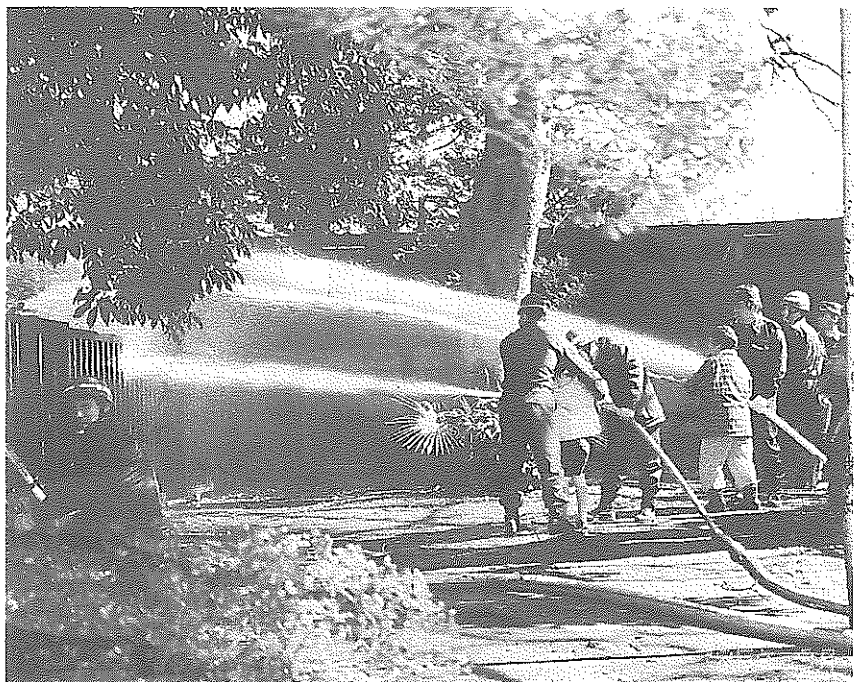
玉川中町会 一人一人の体験を積重ねて

ビル倒壊、随所に発生し
た火災の多くは自然消化を
まつか、地域の消化活動に
委ねられる実情にあったと
思われます。
想像をはるかに越えた此
のたびの災害は、一朝有事
の際、何よりも先ず頼りと
なるのはお隣りであり、ま
た地域住民の助け合いが大
きな支えであったと思いま
す。

近隣との絆を深め

連帯感の育成を

玉川中町町会は、三三三
〇〇世帯、約七、七〇〇名
の町会ですが、住宅地とい
う環境から働き手の殆どは
昼間不在の家庭も多く、
「災害に強い町づくり」は
連帯感の育成、近隣との絆
をより深めて行くことが一



D型ポンプも全員で体験

番大切なことと受け止め、
地域の活動を通じ意識高揚
に努めて行きたいと思いま
す。

今回の災害で多くの火災
発生事例からD型ポンプの
増強も考慮中であり、
D型ポンプは軽量に加え、
女性にも扱い易い利点があ
ります。家屋が倒壊した場
合、住民による消火隊でな

ければならない事態も充分
考えられます。ポンプを増
やすことはそれだけ人手を
増やすことにもなりますが、
この機会に家庭を守る主婦
として、家族の安全ばかり
でなく、地域の自主防災に
意識を拡げることが必要で
す。地域で出来る防災計画
見直しの一環として取り組
んで行きたいと思えます。

砧地域

わが町会の防災対策

船橋会

会長

高橋重信

家庭では

「大地震は突然襲ってくる」

それだけに不断の備えとして、まず家屋の点検、家具の転倒防止、家族間の打合せ、三日分の食糧と水の確保が挙げられる。



竹内砧地域連合町会長はじめ町会幹部の訓練参加者激励

防災組織の確立

地震のゆれを止めることは出来得ない。落着いて身の安全と火の始末（初期消火）に努めることと、町の協力体制確立―「人と人の助けあい」―が大切である。このことを町会を母体とした防災組織で十分考えて充実させていきたい。

船橋会は昭和二十二年十一月発足以来、船橋一、二、三、四、七丁目の地域内居住者、および学校、工場、病院、事業所を以て組織しており、組長、部長が核となり活動を考えています。十世帯から十五世帯を一組とし、町会内には二八〇組あります。十組から十

五組で一つの部を作り、全部で二十五部あります。組長にはヘルメット、メガホン、腕章を支給し、部長には更に加えてラジオ付ライト、救急箱（二十人用）を支給してあります。役員十人にも同様に資機材を支給してあります。組長、部長の交替時には資材の引継ぎを点検し、不足物品があれば補充します。そのほか平成四年には全世帯に「三角巾」を、平成五年には「ローソク」を支給しました。

定例会で防災討議

毎月定例の常会を開き、常会には役員、部長二十五人が集まり、通常の事業内容の話し合いのほか、必ず防災について十五分から三十分の討議を重ねるようになっています。主として避難所

資・機材等の整備

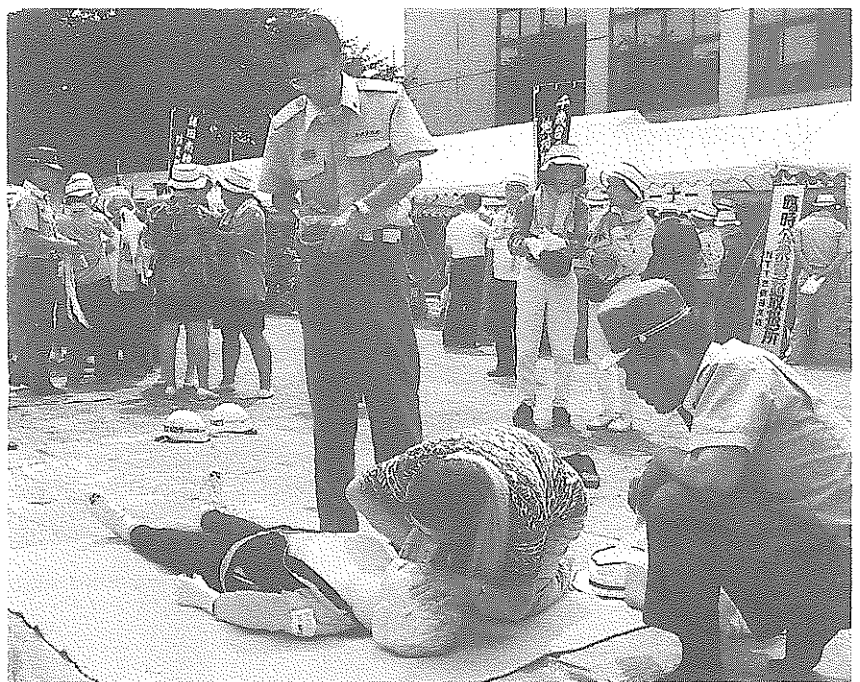
の問題、情報伝達の方法などです。

町会所有の資機材は船橋商店街振興組合事務所に担架二台、船橋消防団詰所に担架三台と五升釜四セット、神明神社に担架二台と五升釜四セットと天幕、高橋町会長宅に五升釜二セットな

拠点と避難場所

震災時指定井戸は十六カ所ありますが、増加の必要があると考えています。

町会では防災の拠点を情報伝達可能な船橋出張所と定めています。都指定の広域避難場所六十三号は明大グラウンド周辺となってい



応急救護訓練

鳥山地域

防災に対する町会の役割

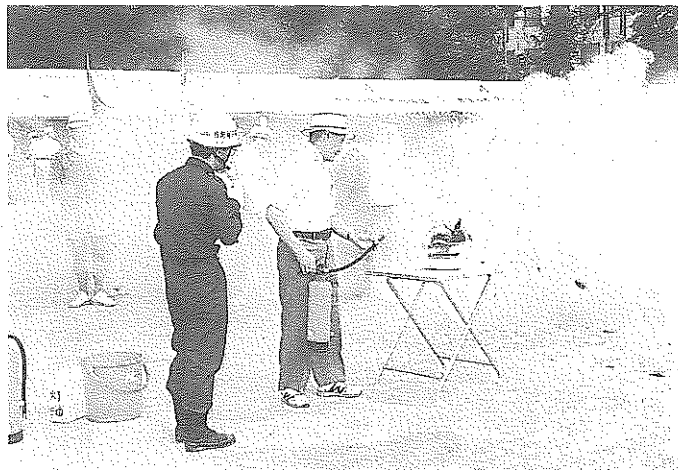
粕谷会 会長 倉本俊幸

阪神大震災は瞬時にして
家屋の倒壊が起こり水道・
ガス・電気等、いわゆるラ
イフラインが破壊された中
で、五百数十件の火災が
発生し、想像を越える大災
害となり、多くの死傷者と

罹災者を出した訳でありま
すが、日が経つに従って
様々な被害の状況が報道さ
れております。
これらの情報に接し、
「自分たちの町は、自分
たちで守る」

という自主防災
の基本姿勢を、
より多くの住民
が意識すること
が、如何に大切
であるかを痛感
いたしました。

粉沫消火器による天ぶら鍋火災の消火



数多くある報
道の一つに今回
の災害では、地
域の「町づくり」
の諸活動を通じ
て近隣相互のコ
ミュニティが醸
成されていた所
と、そうでなか

った地域では、その被害の
程度やその後の避難生活に
ついては大きな差があつた
と聞いております。この事
は、町づくりの諸活動の中
で当然行われていたと思わ
れる。行政当局や関係機関
の非常災害時に対するPR
や、訓練等に依る知識や知
恵が、失火防止や初期消火
に役立っていたと思われま
す。

近隣相互の連帯の下で行
われていた地域の諸行事の
中から、お互いの家族との
情報も知り得ていた事でも
あろうし、これが倒壊家屋
内に取り残された人々の救
出や、避難生活の中で大い
に役立つ事と思われま
す。普段の地域のコミュニ
ティ活動の大切さを如実に教
えられた思いが致します。

(前頁よりつづく)
ますが、船橋七丁目全域が
含まれています。火災で罹
災した人のみが第一集合場
所へと指導しており、船橋
一丁目児童公園、池田児童
公園(地区会館) 神明神社、
宝性寺、千歳丘高校、船橋
中学、船橋小学校がそれに
あたります。「雨露」がし
のげる場所と考えれば、広
域避難所へ行く必要がない
と話し合ひで決めています。

防災予算

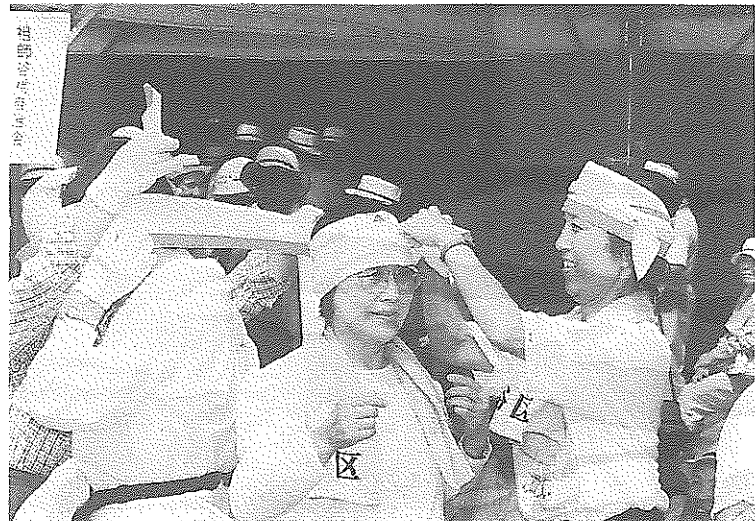
町会としての防火防災の
予算は、町会本来の予算と
は別会計として、非常用積
立金三七〇万を含み五〇〇
万としています。

他団体との協力

また日赤奉仕団と、ボー
イスカウトから協力の話が
ありましたので、引続き詰
めを行っています。

今回の阪

神大震災を
契機に行政
当局も、防
災思想の普
及、又防災
対策の充実
に鋭意努力
されておら
れる事は、
私共も大い
に評価する
処でありま
すが、其の
受け皿とな
る住民の意
識や、組織
は如何なる



三角巾による応急救護

防災特集号の編集を終わって

情報紙編集委員長 渡辺 三郎

ものであろうか。
ちなみに私共の町会の加入率は、全世帯の五〇%にも足りませんし、その内でも防災関係の諸行事に参画される方々は限られた人数であり、それも又、固定化され決まった方々のみの訓練や研修に終わっているのが現状です。

緊急時の防災は、一部の人の防災知識では防止出来るものではなく、地域に住む人すべての人々が防災の知識や知恵を持つことに依って初めて達成されるものだと思います。
そこで、私共の町会では、町会活動の活性化も防災の一翼と捉え、町会の諸行事を通じて、より多くの方々への防災意識と連帯感の浸透を図り、行政当局の防災施策の受け皿として充実に図って行く事が重要だという考えの下に、会員の加入促進を一つの課題として提起し実施して行く事に致しております。

関西大震災の衝撃がまだ醒めやらぬ二月一日に、情報紙創刊号の反省のための編集委員会が開かれ、同時に二号のテーマについて意見が交換された。

情報紙検討委員会の段階で情報紙に取上げるべき話題が十件以上挙げられ、毎号その内の一テーマを中心にして各地域で自由に書いて貰うという方針であったが、前述のような時期に開かれた委員会であったためこの際何はともあれ防災を採り上げようということになった。

しかしご承知のように世田谷区の防災課では年四回「防災せたがや」を発行し、区民に防災についての心構えや、細かい注意を呼びかけています。従って町会総連合会としては、防災のノウハウとか訓練・演習の記録などについては「防災せたがや」にまかせ、情報紙

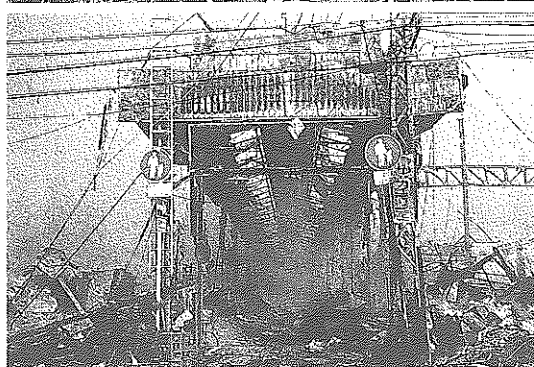
の方は町会長自身として、今回の大災害をテレビなどを通じて徹底的に知らされた今、どのように自分たちの町を守って行こうと考えているかを本音で吐露していただき、またその使命を遂行する上で今日まで困ったこと、或いはこのままでは不安なことなどを紙上でぶつけていただいたらと願った訳です。

そのため折角お届けたいただいた原稿でも、「あの震災後わが町会では、こんな訓練や演習をやって、何人集まった」という類のものは全部一度お返しするとうような非礼を敢て致しましたが、その交渉の過程で皆様にはよく真意をご理解下さって、最終的には極めて具体的な御発表をいただき、その中に各単位町会長が、その規模の大小によりそれぞれ性格は違いますが、大変な苦勞を日常重ねてお

られることが、ひしひしと感じられ、これをお読みになる他町会会長ほか幹部にも大きな刺激ともなり、励ましともなることと信じます。

ご協力誠に有難うございました。感謝とともに途中いろいろ失礼がありましたことをお詫び申し上げます。

最後に蛇足かも知れませんが、今回被害の甚だしい一月十七日朝七時半ごろの菅原商店街 同じく十時頃



かった神戸市長田区菅原商店街と、そこから一キロも離れていない真野地区の写真掲げて防災と、町のあり方について一筆して特集号を終わりたいと思います。

七頁の二枚の写真を較べて見て下さい。菅原商店街の朝七時半と十時ごろです。長田消防署管内十四カ所から出火。使えるポンプ車は三台、七時半の写真で活躍している消防士も消防用水を使い果たして、手の施しようもなく退去。この間付近の人は八頁上の写真のように焼けるにまかせて見物している。この地域での焼

(前頁よりつづく)
失棟数は九七六。死者は百人以上と推定されている。



(写真は週刊新潮二月三日号より)

一方菅原商店街の南々西七、八百メートルの真野地区(真野小学校校区)は東を兵庫運河、西を新湊川に挟まれた面積約四〇ヘクタール、人口五、五〇〇人、二、四〇〇世帯で一六の自治会がある。
「地震で目が覚めたら地区の南東の隅に火がついた。住民がすぐ火消しに回った。はじめは一軒で消せると思ったが、乾燥してたから

すぐ広がった。一〇軒で止まりそうになったが水圧が弱く、もう少しのところまで水がなくなった。ここまではD型ポンプ。近くの三ツ星ベルトの工場からホースを借り、ミヨシ油脂工場の加圧装置を借りたが、最終的には兵庫運河からのバケツリレーで燃える先々に水をかけた。その間二、三時間ではきかない。腕がパンパンになった。最後に六甲山の北側から応援に来てくれた消防車が止めをさしてくれて焼失家屋は四〇軒余で済んだ。(八頁下の写真、焼け跡の向こうに焼け残った家が見える)」

以上は平成七年三月二十八日、世田谷区地域防災協議会の講演会および同日夜三軒茶屋しゃれなあとホールにおける講演会で神戸の地域問題研究所所長、宮西悠司氏の講演の概要ですが、このバケツリレーの時間は正に菅原商店街のアーケードが焼け落ちるのを住民が見物していた時間であることに留意下さい。
火元に近い人がすぐ消火

に着手する。近くの人がすぐ応援に駆けつける。そのもつとも本質的なものは何であったか。それは三〇年にわたる町づくり運動を通じて隣近所の人が互いに知り合っていたこと、それだから三ツ星ベルトに行けば何を借りられるかが分かっていたことにあると宮西さんは強調していました。



- ☆平成七年度の各地域町会連合会の総会はずきの日程で終了しました。
- 玉川地域 五月三十一日(木) 玉川区民会館
- 世田谷地域 六月二日(金) 銀座アスター
- 烏山地域 六月二日(金) 烏山区民センター
- 砧地域 六月九日(金) 砧区民会館
- 北沢地区 六月二十日(火) 大原会館

町総連ニュース

細は八月に発行される「世田谷区町会総連合会会員名簿」をご参照下さい。

☆世田谷区町会総連合会事務局長小泉涌一氏は一身上の都合により去る三月三十一日をもって辞任しました。後任は暫く空席となりますが、その間世田谷区生活文化部管理課調整係三輪幸夫氏が総連合会事務を担当してくれ

☆右の結果、北沢地域町連会長田中 明氏は相談役に退かれ後任に代田東町会の白石 博氏が選ばれました。また烏山地域では高橋政清会長が退任され粕谷会の倉本俊幸氏が後任に選ばれました。

☆単位町会では五月、六月の総会で三十名弱の会長交替がありました。詳

ることになりました。(電話番号は区庁舎五四三二一一一一の内線二二三四です。)

☆右に関連して世田谷信用金庫本店内にあった町会総連合会事務所は閉鎖して天祖神社社務所(世田谷区世田谷一―二三―五)内の連絡所のみとなりました。